日葵辭書原稿「ク」の部（3）

クマ より 終 まで

第一次檢討（主として用例）五村

第二次檢討（動詞其他）淺野

第三次檢討（品詞分類）中島

第四次檢討（全般）長沼

119

ケマ　くま　熊

（名）

○熊の仔、

○熊の皮、

○熊の膽。

日本語教育振興會

刃の部

(3)

クマナラ　とおなく　隈なく　（剖）

○隈なく捜したが見附からなかった。

○彼は日本中隈なく歩いて。

○月が隈なく照らす。

○眼もとけ心は隈なく晴れ渡る。

日本語教育振興会

クミ

〔組〕

〔名〕

○此の机と椅子とは組になつてゐます。

○お茶の道具が一組あります。

○あの人達が組になつて悪事を働いた。

○君は何組ですか。

~~○僕は四年の三組です。~~

○三年は赤組と白組とに別れてゐます。

○あの人はもう老人の組だ

△仲間

チョウシュウ　ちょうしゅう　徵集（する）（他サ変）

△現在召集の方を多く用ふ。意味は同じ。

○予備兵を徵集する。

○徵集延期。

○徵集免除。

日本語教育振興会

クミアイ　くみあひ　「組合」（名）

○組合に入りたいと思ひますから（その）手續をして下さい。

「組合」と熟して用ひられることが多い。

○此の商事は強ど組合にふつてゐます。

○信用組合

日本語教育振興會

クミアゲル　くみあげる　　汲上げる（化が下一）

○ポンプで水を汲上げる。

○二階に水を汲上げる。

日本語教育振興會

クミアワセル　くみあはせる　組合せる（仮名下二）

○銃を組合せる。

○竹を十文字に組合せる。

○手を組合せる。

日本語教育振興會

クミダス　くみだす　汲出す（仮廿四）

○ポートの底に溜った水を汲出す。

○桶の水を汲出す。

日本語教育振興会

クミタテ

組立

○此の文の組立

○あの工場は航空機械の組立をしてゐます。

○機械の組立の方法を説明します。

○家屋はまだ組立ています。

~~組んだばかり~~

日本語教育振興會

クミチョウ　くみちやう　組長　名

○あの人は隣組の組長をしてゐます。

○此の子は三年二組の組長です。

注意。普通は学校では、級長を使ふ。

日本語教育振興會

クミツク　〔組附く〕（自四）

○警官は怪しい人影を認めるといきなり組附いた。

○後から組附く。

日本語教育振興會

7ム

汲む（他マ四）

○バケツ（ポンプで）に水を汲む。

○井戸（の水）を汲む。

○お茶を汲む。

○別れの酒を汲みかはす。

○あの方の悲しんでゐるこころを汲んであげる。

くてはならない。

○あの要家は印象派の流れを汲んでゐる。

我東、その流派を繼承、受けてゐる

日本語教育振興會

リム

一 締む。組立てる。

○紐を組む。

○木を組む。

○板を組む。

二 交叉する。

○腕を組む。

○お友達と手を組んで歩く。

三 組になる。

○三人で一組に組んで下さい。

○あの人は仲間の人と組んで悪い事をした。

〔組む（他・マ四）〕

日本語教育振興会

敬ゴ

クメン　めん　〔工面〕　〔すき〕（世サ変）

~~金策・懐ト合~~

○金の工面がつかない。

○あの家は近頃工面がよいらし。

~~[illegible]~~

~~金銭の調達の意味に用ル。~~

○私の方で何ぞ工面しませう。

○此方で工面する位何でもありません。

日本語教育振興会

7
モ

蜘蛛 迫

◎

蜘蛛の子を散らすやうな

澤山の人がちりぢりに逃げ去る様子

毎日フクスル　ちょうふくする　（日数　サ

変）

（重ね合わ。

重複　重複

。仕事が重複する。

。

日本語教育振興会

7モ

(1) 空に浮いてみる雲

(2) 水蒸気が凝結し

○今日は雲が低い。

○雲一つない大空。

○雲が切れた。

○あやしい雲がでてきた。雨になるかもしれない。

(2) 物事の不確な事

○雲を掴む様な話

○心に雲がかかる。

○今度の事で

○あの人に対する私の気の雲はすっかり晴れました。

雲 (五)

(ト)高い、地位、場所。

①雲を衝くやうな大男。

○富士山は雲の上に高く聳えてゐます。

⑩雲を焦がす勢(火焔が高くのぼる様子)

日本語教育振興会

クモユキ　くもゆき　「雲行」　名

1) 空模様

○雲行が怪しいと思ったら雨が降りだした。

10時になって大分雲行が悪くなって来た。

形勢

○會議の雲行は険悪になって来た。

~~○あの雲行では雨がうまく行くかどうだか。~~

日本語教育振興会

クモリ　　雲　　名

(一)
曇天。

○朝は晴れてゐたのに午後は曇りになつた。
○明日は曇でも出かけませう。
○東京地方は曇り他は晴

○明日の遠足は曇りなら行きます。

2 はつきりしない事。

○鏡が曇る。心の曇り。

○眼鏡が曇る　曇りのない鏡

○曇りがラス。
曇り聲
3 はつきりしない。(疑)

○戰友の戰死をしらせる　校の聲は曇りがちだ。

日本語教育振興會

(二) はつきりしないこと、疑、不安など

○私の心には絶対曇りはない。

○あの人に対する私の疑の

○幼な心は曇りのない空の様です

◎曇硝子

△つゆけしのガラス

日本語教育振興会

メモル

「曇る」（自 5.四）

(一) ~~曇~~天候

○今日は曇ってゐるので寒い。

○大分空が曇って来た 晩は雨になるかもしれない。

○曇った~~ゆ~~天氣。

二 ~~赤い色すぶ~~ぼんやりするかすむ。

○どんより曇った絵

○湯気で窓硝子が曇ってゐる。

(三) ~~眼がかすむ。~~

○涙で眼が曇る。

日本語教育振興會

○

(四)はれぐしない憂いるのさぐ。

○顔が曇る。

○悲しい出来事に思はず顔を曇らせた。

○聲が判らない。

○子供の死を知らせる父の聲は涙にくもつてゐた。

○天皇陛下の日本の尊さを語られる先生の聲が時々涙に曇り感激のあまり目は涙でくもつた。

日本語教育振興會

クヤシイ　くやしい（形）

○大東亜を米英に自由にされる事は、私達に

[illegible]　[illegible]にくやしい事です。

○あの人に負けてくやしいと思はないか。

○くやしければもつと勉強をしなさい。

○くやしいにはくやしいが私の力ではどうにどうする事も出来ません。

注意　「口惜しい」の一般的な形。

日本語教育振興会

クヤミ　くやみ　〔悔み〕　名

一、人の死を弔ふこと。　普通「お悔み」

○お悔みを行く。

○お悔みの言葉もございません。

二、後悔

○後になつて、悔みのない様、最善をつくす。

敬　(オ)

日本語教育振興会

クヨオ　くやう

「供養」（名）（―する）（仏・サ変）

①来る二十日は父の命日に当りますので
ささやかな供養の為法要を営みたいと存じます。
②昨日動物園では殉難動物供養の為盛大な
慰霊祭を行った。
―する。
③死者を慰に供養する。

敬（ゴ）

日本語教育振興会

クヨクヨ　くよくよ　（副）

○つまらない事をくよくよ心配する

○すんだ事はくよくしたって仕方がない。

○それだけのことでくよくよするほど暇はない。

日本語教育振興會

クラ

○倉をたてる。

△財物を納めておく高の建物

倉…穀物ぐら。　藏　品物をしまっておくくら。

庫…文書などをのせておくくら。

〔庫藏〕

〔倉〕（名）

敬　オ

クラ

鞍、（名）

○馬の背に鞍を置く。

日本語教育振興會

暗いのあと、

クライ　くらい　（一位）　（名）　（敬才、ミ）

○功により位一級昇進められた。　（自サ変）

○あの方は私共よりずっと上のくらいです。

○位の非常に高い方です。

○一の位と十の位を間違へた。

○増産の成績は毎月が常に首位を位してゐます。

○駅は殆ど市の中央に位してゐます。

○富士山は世界一位の位する山です。

○位置（陣屋）

○九位

△「みくらゐ」は天皇の位をうやうやしく使はる。

グライ　ぐらゐ　位　（接尾）

○このくらゐのものなら一人で持てます。

○どのくらゐお入用ですか。

○この室には百人ぐらゐはいれる。

○この絵をほめて下さるのはあなた位のものです。

○一寸見たぐらゐで分るものですか。

△数、量、程度等を漠然と表はす言ひ方。

「ほど」「ばかり」より漠然としてゐる。

「この位」も「これ位」も同様に用ゐられる。「ほど」「ばかり」には「この、その、どの」はつかず「これ、それ、どれ」がつく。

深い暗闇の中のような
クラヤミをこそんな感じ

クライ　　暗い　形

○太陽が沈んであたりはだんだん暗くなってゆく。

○電燈が消えたので暗い。

○三十ワットの電燈は六十ワットより暗い。

○父に死なれて世の中が暗くなった。淋しい気がする。

○暗黒

○西洋史では五世紀から十一世紀までを暗黒時代と言う。

(三)不案内　知識がない。

日本書籍株式会社

○私は工業の方面には暗い。

○此の世の事情に暗い。

○世間の事に暗い。

(四)後めたいこと。

○これでも暗い事はしないつもりだ。

~~(五)況~~

~~○暗い表情になる。~~

~~○前途が暗くなる。~~

~~○実に死なんとする中が暗黒になった様~~

~~様がします。~~

日本語教育振興會

クラウ　くらふ　食ふ（他ハ四）

一、食べるの意
○飯をくらふ。
○酒をくらふ。

二、うける
○拳骨をくらつた。

俗

俗な言葉であるから用ゐない方がよい。

注意。

~~食べる、のむ、くらふ等は書き方を使ひ方がよい。~~

~~書き方は使ひ方がよい。~~

~~最後の例は~~

~~ようです。~~

日本語教育振興會

クラがり　くらがり（暗がり）（名）

○暗がりの中を（私は）二階まで手さぐりで上って行った。

○鼠は暗がりでもよく見える。

○くらがりを利用して敵陣を抜け出した。

日本語教育振興会

グラグラ　ぐらぐら（副）

(一)（浮動　震動）する様子。

○突然大地がぐらぐらとゆれた。

○あの人の考えは ~~人者~~ がいつもぐらぐらしてゐる。

(二) 沸騰する様子

○彼はぐらぐら煮えたつてゐるお湯を浴び

て大火傷をした。

○藥罐にお湯がぐらぐら煮えたつ音がする。

日本語教育振興會

クラシ　くらし　暮

生活。

○樂な暮。

○暮に困る。

○音樂で暮を立てる。

○暮をかりつめる。

~~○暮し向きが樂になる。~~

~~○暮がたたない。~~

○その日暮し。

（名）

日本語教育振興會

クラシムキ　　暮七向

○勤め人にとって此の頃は暮七向の困難な時はない。

○暮七向が楽になった。

日本語教育振興会

クラス　　暮す（他サ四）

（一）日の暮れる時を過す。月日を送る。

○朝から何をする事もなく一日暮してしまった。

○毎日を感謝して暮す。

（二）月日を送る。

○その後無事に暮してゐます。

○生活して行く。

○此れだけあれば一家四人が充分に暮してゆけます。

日本語教育振興会

グラツク　ぐらつく

（自力四）

○机がぐらついた為、字がゆがんだ。

○彼の決心はだんだんぐらついてきた。

熱がある ので

○足がぐらついて歩けない。

日本語教育振興会

クラブ　ちゃぶ　（名）

倶楽部

①あのクラブへは會員の推薦がなければ入れません。

日本語教育振興會

クラベル

〔競べる〕

〔比べる〕〔他ハ下〕

(一) 比べる。

○長さを比べる。

~~油と水を比べる。~~

○~~重さを比べる。~~ 油と水の重さを比べると油の方が軽い。

○二人を比べるとよくその違ひが解ります。

成績は

○昨年と比べるとずつとよくなりました。

~~(二) 競べ~~

○走背競べ

日本語教育振興會

クラスス　くらます　暗ます（知恵出し）

（中）目を晦ます。

○目を晦ますばかりの輝き、

○あ小は我々の目を晦ます手段だ。

（中）踊を晦ます。

（中）踊を晦まして逃げる

○犯人は行方を晦ましてしまった。

日晦す

日本語教育振興会

クラム　くらむ　暗む　（自動四）　眩む。

○太陽は目も暗むばかり輝いてゐる。

○怒に目が暗む。

○金に目が暗む。

注意　単に暗むと多用ひずして目が暗むとして用ひる場合多い。

〃　本来暗くなるといふ事から眩まし眩ゆくて（ぼうっとする）

物の判別出来ない意味　更に（他のものにまぎれて）

判断が確なる誤る意味に用ひる。

日本語教育振興会